

年金記録訂正請求に係る答申について

東北地方年金記録訂正審議会
令和6年5月15日答申分

○答申の概要

- | | |
|------------------------|----|
| (1) 年金記録の訂正の必要があるとするもの | 1件 |
| 厚生年金保険関係 | 1件 |

厚生局受付番号 : 東北(受)第2300187号

厚生局事案番号 : 東北(厚)第2400004号

第1 結論

請求者のA社における厚生年金保険被保険者資格の喪失年月日(平成3年12月31日)及び取得年月日(平成4年6月1日)の記録を取り消し、平成3年12月から平成4年5月までの期間の標準報酬月額を17万円とすることが必要である。

平成3年12月31日から平成4年6月1日までの期間については、厚生年金保険法第75条ただし書の規定により、保険給付の計算の基礎となる被保険者期間として記録することが必要である。

第2 請求の要旨等

1 請求者の氏名等

氏名 : 男
基礎年金番号 :
生年月日 : 昭和45年生
住所 :

2 請求内容の要旨

請求期間 : 平成3年12月31日から平成4年6月1日まで

私は、A社に平成3年9月25日から平成5年10月6日まで継続して勤務していたにもかかわらず、請求期間の厚生年金保険被保険者の記録がない。請求期間について、厚生年金保険料を控除されていた記憶があるので、請求期間を厚生年金保険被保険者期間として記録してほしい。

第3 判断の理由

請求者から提出された雇用保険被保険者離職票1及び請求者に係る雇用保険被保険者の記録によると、請求者は、請求期間を含む平成3年9月25日から平成5年10月6日までの期間、A社において継続して勤務していたことが確認できるが、オンライン記録によると、請求者は、同社における厚生年金保険被保険者資格を平成3年12月31日に喪失し、平成4年6月1日に当該資格を再取得していることが確認できる。

また、オンライン記録によると、A社において、平成4年6月1日に、請求者を含む50人が厚生年金保険被保険者資格を新規取得又は再取得しており、当該資格取得の処理は、同月4日に行われていることが確認できる。

さらに、オンライン記録によると、A社において、上記新規資格取得及び再取得

処理が行われた日より後の平成4年6月8日に、請求者を含む44人に係る平成3年12月31日の厚生年金保険被保険者資格の喪失処理が、遡及して行われていることが確認できる上、当初、平成4年1月13日から同年3月23日までの間に厚生年金保険被保険者資格を取得した10人が、同年6月8日にそれぞれの資格取得年月日に遡及して資格取得の取消処理が行われていることが確認できる。

しかしながら、上記遡及資格喪失処理及び資格取得取消処理が行われた54人の雇用保険被保険者の記録によると、上記請求者を含む44人の遡及資格喪失が処理された期間及び上記10人の資格取得が取消処理された期間において、全員がA社に継続して勤務していたことが確認できる。

また、上記54人のうちA社の現在の代表取締役、請求期間当時の代表取締役及び複数の同僚は、請求期間当時の同社の経営状況はあまりよくなかった旨回答又は陳述しており、当該同僚のうち一人は給料の遅配があった旨回答している。

加えて、上記複数の同僚のうち、請求期間当時にA社の管理職であったとする者は、同社が社会保険料を滞納していたため、上司が社会保険事務所（当時）の職員と相談し、社員全員の厚生年金保険被保険者資格を喪失させたと聞いたことから、自分の記録が取り消された期間に在籍していた従業員の記録は皆取り消されたはずである旨陳述している。

これらを総合的に判断すると、請求者について、平成3年12月31日に厚生年金保険被保険者資格を喪失し、平成4年6月1日に被保険者資格を再取得する合理的な理由はなく、当該被保険者資格の喪失及び再取得に係る記録は有効なものとは認められないことから、請求者のA社における資格喪失年月日（平成3年12月31日）及び資格取得年月日（平成4年6月1日）の記録を取り消すことが必要である。

また、請求期間の標準報酬月額については、平成3年11月のオンライン記録から、17万円とすることが妥当である。